

事務事業評価シート(1/2)

1頁
令和 5年 8月15日
11時11分02秒

評価年度 令和 4年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

電話番号 77-7795

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目(施策)	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	007	子ども発達支援センター施設管理事業		
事業期間	平成30年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	安城市子ども発達支援センターの設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようにします。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるように、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

【コスト】

(単位:千円)

	令和 3年度 決算額	令和 4年度 決算額	令和 5年度 予算額
トータルコスト	52,649	55,480	76,043
事業費	40,769	43,600	64,163
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	40,769	43,600	64,163
人件費計	11,880	11,880	11,880
正規(人)	1.80	1.80	1.80
その他経費	0	0	0

	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
【事務事業活動実績】	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和 5年 8月15日
11時11分02秒

評価年度 令和 4年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
修繕実施件数	件	20.00	20.00	20.00
		9.00	8.00	0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む)件数	件	10.00	10.00	0.00
		0.00	0.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の施設であるため管理を行う必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	安心安全に利用してもらうため、施設の適切な管理が必要です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支障無く施設の管理を行うことができています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	施設規模に応じた適切な管理を行っています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	子ども発達支援センターあんステップは、発達相談支援室、やまびこルーム、サルビア学園及び地域交流図書コーナーがあり、様々な市民の方が利用する施設です。特に未就学児の利用が多い施設であるため、必要時には修繕を行うなど、安全面に十分配慮した施設管理を継続していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 5年 8月17日
18時40分59秒

評価年度 令和 4年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

電話番号 0566-77-7796

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	008	子ども発達相談支援事業			
事業期間	平成30年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的/政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法				
備考					

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園等へ出向いての訪問相談、集団指導、保護者支援、グループ支援
事務内容	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会（親子教室）、ペアレント・プログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室の実施継続

【コスト】

（単位：千円）

	令和 3年度 決算額	令和 4年度 決算額	令和 5年度 予算額
トータルコスト	161,820	174,958	184,260
事業費	69,420	75,958	85,260
国庫支出金	1,177	1,136	1,950
県支出金	588	567	975
地方債	0	0	0
その他	25,390	22,797	27,007
一般財源	42,265	51,458	55,328
人件費計	92,400	99,000	99,000
正規（人）	14.00	15.00	15.00
その他経費	0	0	0

	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
【事務事業活動実績】	発達相談4,136件、就学相談747件、訪問相談133回、障害児（特定）相談支援事業4,478件、1歳6か月事後指導会47回、ペアレント・プログラム教室15名、SST教室6組	発達相談4,485件、就学相談828件、訪問相談108回、障害児（特定）相談支援事業4,957件、1歳6か月事後指導会48回、ペアレント・プログラム教室18名、SST教室6組	発達相談、就学相談訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月事後指導会、ペアレント・プログラム教室、SST教室

事務事業評価シート (2 / 2)

評価年度 令和 4 年度 進捗区分 1 次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
教室内容の満足度	%	90.00	90.00	90.00
		100.00	100.00	0.00
教室参加後変化ありの割合	%	80.00	80.00	80.00
		67.00	83.30	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	継続的に実施していきます。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民ニーズは十分にあります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標を上回っています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業運営の検討に取り組んでいます。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	環境変化に応じた事業の実施に努めています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	<p>ペアレントプログラム教室は就学前の児を持つ保護者を対象とした教室と小学校低学年の児を持つ保護者を対象とした教室を実施しています。参加した保護者の満足度は高く、今後も継続して実施していきます。また、支援者養成を目的とした支援者研修は、関係各課及び市内サービス事業所、子育てに関する住民団体等へ周知し、参加を呼び掛けています。</p> <p>ソーシャルスキルトレーニング事業は、小学校低学年の児とその保護者を対象に、就学支援担当の臨床心理士を講師として開催しています。安城市版実施マニュアルに基づき継続的に実施していきます。</p>

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	<p>本事業においては、2次評価を実施していません。</p>

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 5年 8月15日
11時12分15秒

評価年度 令和 4年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231530 子ども発達支援課療育係

事務事業 02481 やまびこルーム事業

電話番号 0566-77-7912

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	003	やまびこルーム事業			
事業期間	平成 3年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	児童福祉法、知的障害者福祉法				
備考					

【事業分析】

対象	子どもの発達に不安のある親とその子どもが、
目的	子どもの発達の特性を理解し、親子共に成長していくことを目的とします。
手段	子どもの発達に不安のある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導（1～3歳程度の乳幼児、0～5歳程度の未歩行児及び重症心身障害児）、就園後の療育支援、行事（父親参観、保護者向け研修会など）

【コスト】

（単位：千円）

	令和 3年度 決算額	令和 4年度 決算額	令和 5年度 予算額
トータルコスト	49,485	42,891	52,876
事業費	23,085	16,491	26,476
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	121	248	461
一般財源	22,964	16,243	26,015
人件費計	26,400	26,400	26,400
正規（人）	4.00	4.00	4.00
その他経費	0	0	0

	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
【事務事業活動実績】	集団療育・親子遊びの 実施回数 652回 専門相談（発達・言語 相談 計96回）	集団療育・親子遊びを 実施回数 644回 専門相談（発達・言語 相談 計91回）	集団療育・親子遊びを 実施します。

事務事業評価シート (2 / 2)

2 頁
令和 5 年 8 月 15 日
11 時 12 分 15 秒

評価年度 令和 4 年度 進捗区分 1 次評価
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
療育訓練参加者数	人	200.00	150.00	122.00
		128.00	122.00	0.00
療育訓練参加者数 / 療育訓練希望者数	%	100.00	100.00	100.00
		100.00	100.00	0.00
療育内容に対する満足度	%	80.00	80.00	80.00
		100.00	98.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク	
1	必要性	国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある		
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている		
理由	早期療育が必要なため、市で実施しています。			
2	必要性	市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している		
		3 市民ニーズはない又は不明である		
理由	早期療育が必要な子どもは一定数存在します。			
3	有効性	目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である		
		3 進捗はかなり遅れている		
理由	療育相談・支援を希望される方に全て応じています。			
4	効率性	事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる		
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない		
理由	参加人数に応じてクラス編成し、効率的に実施しています。			
5	公平性	事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。		
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。		
理由	必要な療育相談・支援を実施しています。			

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	発達に何らかの偏りや心配のある子どもが、親子で基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけていけるよう、集団療育や親子遊びを行っています。療育支援を必要とする子どもの保護者の就園への不安を軽減するため、関係機関と連携して、就園の説明や相談を行いました。 また、保護者自身が精神疾患や発達に問題を抱えているケースが増えているため、保護者支援のための勉強会を実施したり、臨床心理士の配置を各クラス 1 か月に 1 回配置できるようにしたりし、参加の仕方や対応を検討しながら保護者支援に取り組みました。発達についての支援は保護者の心にとって繊細な問題なため、引き続き丁寧な親子支援が必要です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 5年 8月15日
11時12分51秒

評価年度 令和 4年度 進捗区分 1次評価

所属 0001231540 子ども発達支援課通所係

事務事業 02480 サルビア学園事業

電話番号 0566-77-7797

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目（施策）	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	002	サルビア学園事業		
事業期間	昭和50年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	知的障害等のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養います。
手段	【児童発達支援事業】知的障害等のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適應できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など。

【コスト】

（単位：千円）

	令和 3年度 決算額	令和 4年度 決算額	令和 5年度 予算額
トータルコスト	127,688	116,711	128,382
事業費	41,888	37,511	49,182
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	41,888	37,511	49,182
一般財源	0	0	0
人件費計	85,800	79,200	79,200
正規（人）	13.00	12.00	12.00
その他経費	0	0	0

	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
【事務事業活動実績】	4月51人（新入22人） 途中入園 0人 年間実人数 51人 移行（転出含む）・卒園 児 22人 保育所等訪問支援 4件	4月53人（新入24人） 途中入園 4人 年間実人数 57人 移行（転出含む）・卒園 児 26人 保育所等訪問支援 2件	4月54人（新入22人）

事務事業評価シート (2 / 2)

評価年度 令和 4 年度 進捗区分 1 次評価
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
サルビア学園入所児童数	人	50.00 49.25	50.00 50.58	50.00 0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	3.00 4.00	3.00 2.00	4.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	実状に即した適切な支援を実施する必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	支援の必要な子は一定数存在します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支援の必要な子を受け入れています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	法令に基づいて実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	支援が必要な児童を受入れ、必要な療育支援を行いました。保育所等訪問支援事業は2件の申込に対し延べ9回の訪問支援を行いました。 外国にルーツを持つ児童の受け入れは、コミュニケーションの問題から支援方法に課題はあるが、8名（全体の14%）を受け入れて必要な支援を行いました。今後も様々なツールを駆使して適切な事業運営を行っていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。